



刈谷の



刈谷にゆかりのある輝く人を紹介します！



第108回全国高校野球選手権大会 ベスト4
横浜高校硬式野球部

えざか よしふみ
江坂 佳史さん

プロフィール

依佐美中出身、横浜高校3年生。小学生の頃は小垣江ファイターズに所属し、中日ドラゴンズジュニアにも選出。中学では名門・東海中央ボーイズに所属。今夏の甲子園では全5試合に出場し、18打数8安打、打率.444。

仲間と過ごした最高の時間

「最後は優勝して終わりたかったが、チームメイトと厳しい練習を乗り越えてここまで来ることができて、結果以上に濃い時間を過ごすことができた」と話すのは、今夏の甲子園に神奈川県代表として出場した横浜高校の江坂さん。甲子園では主に5番レフトでチームの主軸を担い、攻守で活躍しました。

2回戦の日南学園戦では、9回表に相手投手の心理を読んで、試合を決定づける満塁ホームランを放ち、準々決勝の花巻東戦では、1対0のランナー1・2塁で迎えた3回表の守備で、あわや同点タイムリーのところを見事なバックホームで得点を阻止するなど、多くのビッグプレーで全国にその名を轟かせました。

準決勝では、中学のチームメイトも主力で出場していた智辯和歌山と対戦。前日にはLINEでやりとりし、「この舞台で対戦できることにわくわくしていた。負けてしまって悔しかったが、最後まで楽しむことができた」と笑顔で話します。

苦い経験を糧に

中学時代に所属したチームの監督の薦めや、先に入学を決めていたチームメイトに「一緒に甲子園に行こう」と声を掛けられたこともあり、親元を離れて横浜高校に入学することを決意。1年生の夏からベンチ入りし、県大会決勝でも途中出場から2安打を放ちましたが、自分が最後のバッターで打ち取られて敗退してしまいました。「あと1本つながればというところで打つことができず、先輩たちの夏を終わらせてしまった。どん底に落ちた感覚だった」と当時を振り返ります。しかし、そこから2年生の春のセンバツでの優勝を含めて、4期連続で甲子園に出場。「あの時の経験があったからこそ、這い上がることができた」と力強く話します。

次のステージを見据えて

高校卒業後は、大学に進学して野球を続ける予定。「大学の練習を見学したが、レベルの高さを痛感した。1年生から試合に出場できるように、しっかりと練習して準備したい。そこからプロにも注目されるような選手になりたい」と意気込みます。次のステージでの活躍を誓い、江坂さんの武者修行はこれからも続きます。

★輝く人の原動力！

仲間との縁

各地から集まったこの仲間たちと出会えたことが奇跡。一生大切にしたい仲間たちです。



地元の友人や恩師

県外に行っても応援してくれる地元の皆さんには、いつも感謝しています。

